

京都薬大

次期学長に平田收正氏

コアカリ改訂などに貢献

京都薬科大学は昨年12月19日の理事会で、次期学長に平田收正氏（和歌山県立医科大学薬学部教授、68歳）写真を選出した。任期は4月から4年間。学外からの学長就任は、近年では2010年4月着任の乾賢一氏以来。

平田氏は、これまで薬学教育モデルコア・カリキュラム改訂や第三者評価など、薬学教育の改革や改善に深く関わってきた。

本曾誠一理事長は「次期学長となる平田氏には、創立150周年を見据えて、本学を私学トップの薬学教育研究機関とする志を持ち、熱意と誠意を持って邁進されることを期待している。コンプライアンスを重視し公正で透明性の高い教育運営を恒常的に行い、学内人材をよく生かして、学生と職員の意欲と士気を高める大学運営に積極的に取り組まれるものと確信している」とコメントした。

平田氏は1982年3月に京都薬大を卒業後、大阪大学大学院薬学研究科応用薬学専攻博士後期課程を修了し、薬学博士号を取得。87年以降、阪大薬学部で助手、助教授、教授を歴任し、附属実践薬学教育研究センター長や附属薬学地域医療教育研究センター長、副研究科長など多くの要職を務めた。2021年からは新設に関わった和歌山県立医

大薬学部の副学部長・教授に就き、教育や研究活動を続けている。

日本薬学会では薬学教育改革大学人会議委員や薬学教育委員会委員、モデルコ

ア・カリキュラム改訂調査研究委員会委員などを歴任。薬学教育評価機構では評価委員会委員長や薬学教育質保証委員会委員長などを担当してきた。

